

2009.8
VOL.17

おとうふ日和

まいにちのおとうふは、どんな薬にも勝るもの。
そのままよし、煮てもよし、焼いてもよし。本物の食は、すぐここにありました。

こんにちは。株式会社手造り屋 社長の岩崎勉です。

5周年が皆様のご協力により終わりましたことを心からお礼申し上げます。

おおぜいのお客様のご来店、そして400通近いメッセージカードを頂き感謝です。
これからも、本社・工場・店のスタッフ一同励ましの言葉、また愛ある注意の言葉を心に書きおき、ご期待に添うよう強い思いを持ち努めさせていただきます。

石臼挽き寄せ豆腐「浮しろ」の由来

2009年7月19日の大河ドラマを見ていて「手づくりやさん」で販売の石臼挽き寄せ豆腐「浮しろ」に由来する忍城に関係するところが、放映されましたので書いてみました。
1590年(天正18年)、豊臣秀吉の小田原征伐の際、城主・成田氏長は小田原城にて籠城。行田では家臣と農民ら三千の兵が忍城に立てこもった。豊臣方の忍城攻めの総大将は石田三成。三成は本陣を忍城を一望する近くの丸墓山古墳(埼玉古墳群)に置き、近くを流れる利根川を利用した水攻めを行うことを決定し、長さ28kmにも及ぶ「石田堤」を建設した。
しかし、忍城はついに落城せず結局は小田原城が先に落城したことによる開場となるが、石田三成らの寄せ手は関東にある北条方(小田原)の支城で唯一落ちなかった忍城を水攻めにも屈しない城、また水の上に浮いているようにみえた城、忍の浮城(うきしろ)と呼んだ様です。

「浮しろ」の名前について

埼玉県行田市に昔から農家の方が食べ量としていた美味しい大豆、在来品種です。
地元の小林さんや、長谷川さんたちが特別栽培の基準よりも農薬、化学肥料をおさえて心をこめて作ってくれています。
「行田在来」を使いおとうふを作ることになり、商品名を「浮しろ」と名付けました。
大豆の農家さん、豆腐職人さん、お店のみなさんの顔がみえます。



この道40年の豆腐職人片野氏が、

行田在来大豆一粒一粒の呼吸をみながら、昔ながらの石臼で大豆を挽き、にがりを打つ、気の入った手寄せ作りです。
1丁1丁手造りだから甘みも素材の味そのものです。

この忍城攻防戦を書いた小説です。

是非一度目を通して見てください。

- 1、『「のぼうの城」』著者:和田竜 1、『「水の城」いまだ落城せず』著者:風野真知雄

近くには、1「古代蓮の公園」 2「埼玉古墳群」などありますよ。
こちらもち寄り寄ってみてはいかがでしょうか？